

令和7年度 日本電子専門学校 第一回学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：令和6年4月 1日
至：令和7年3月 31日

令和7年8月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針 1
2. 学校関係者評価委員名簿 2
3. 学校関係者評価委員会の実施状況 4
4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方 5

II 学校関係者評価報告書の見方 7

III 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総評 8

項目別評価結果

○教育重点項目 9

○評価項目の達成及び取組状況 12

基準3 教育活動

基準4 学修成果

基準5 学生支援

基準7 学生の募集と受入れ

○総合評価 15

IV 学校関係者評価委員会議事録 17

1. 全体会自由意見 20
2. 分野別分科会 23

議事録

- ① アニメ分野分科会 25
- ② CG・映像分野分科会 27
- ③ デザイン分野分科会 28
- ④ ゲーム分野分科会 30
- ⑤ AI・モバイル分野分科会 36
- ⑥ ネットワーク・セキュリティ分野分科会 38
- ⑦ DX 分野分科会 41
- ⑧ 情報分野分科会 44
- ⑨ 電気分野分科会 46
- ⑩ 電子分野分科会 50

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和7年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

添付：自己点検評価

- ① 第1回目(7月)に実施する委員会は、令和6年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和7年度に定めた、重点的に取組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ② 第2回目(12月)に実施する委員会は、令和7年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、在学生に委嘱した。

属 性	氏 名	所 属	役 職
企 業	鈴木 周祐	株式会社びえろ	人事総務部 リーダー
	後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	研究開発部 第4研究開発室長
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	顧問
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	宮内 舞	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 教育推進グループ
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	中野 正	一般社団法人ソフトウェア協会	事務局 管理課課長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	人材交流委員会 委員
	舟山 大器	一般社団法人 日本 PV プランナー協会	EMA 認定センター センター長
	西郷 直紀	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
高校教員 等	品田 健	聖徳学園中学・高等学校	学校改革本部長
	横田 えりか	株式会社ウィザス	教育運営部 キャリアサポートセンター
日本語学校	亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部
卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	ソリューション 統括本部

	大曾根 良孝	日本電子専門学校同窓会	理事
ご家族・ 保証人	高橋 美登里		
	岸本 美香		
	岡本 忠司		
	田野 滋子		
	森 清子		
地域住民	原田 識義	百人町西町会	会長
在校生	下園 紗月	アニメーション研究科	2 年生
	森下 晴紀	情報処理科	2 年生
	岩永 礼矢	高度情報処理科	2 年生
	伊東 凜	学生自治会 会長（ゲーム制作研究科）	2 年生
	小倉 昊太郎	ゲーム制作研究科	1 年生
	葛巻 沙織	CG 映像制作科	1 年生
	埜村 萌花	ネットワークセキュリティ科	1 年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和7年度第一回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和7年7月14日(月) 13:30から16:30

場所：日本電子専門学校 メディアホール

2) 学校関係者評価委員会実施方法

対面及びオンライン会議システム(Teams)を利用し、ハイブリッド運用にて実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡(スケジュール、事前配布資料確認) 13:30～

(2) 校長挨拶

(3) 出席者紹介(日本電子教職員、評価委員)

(4) 評価方法説明

(5) 議長(委員長)選出

(6) 学校関係者評価委員会開始 13:50～

自己評価結果の解説とその評価

○教育重点項目

○教育活動

○学修成果

○学生支援

○学生の募集と受入れ

・・・ 評価結果の判定(評価シート記入) ・・・

(7) 令和7年度重点項目発表 14:52～

(8) 意見交換 14:07～15:20

(9) 分科会 15:45～16:45

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① アニメ分野分科会

② CG・映像分野分科会

③ デザイン分野分科会

④ ゲーム分野分科会

⑤ AI・モバイル分野分科会

⑥ ネットワーク・セキュリティ分野分科会

⑦ DX 分野分科会

⑧ 情報分野分科会

⑨ 電気分野分科会

⑩ 電子分野分科会

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、第一回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、「職業教育評価機構が定めた専門学校等評価基準（Ver.4）」の評価基準に則った自己点検・自己評価を実施した。

点検項目は、令和6年度における「教育重点項目」7項目及び、「評価項目の達成及び取組状況」10分類65項目であり、合計72項目である。

『令和7年度自己点検評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

2) 自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『令和7年度自己評価報告書』を用いて、自己評価で満点とならなかった項目、昨年度から自己評価が向上または低下した項目について報告し、評価をお願いした。

4. 学習成果 評価と今後の改善方法

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
4-13-25	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	0
4-14-26	資格・免許取得率の向上が図られているか	4	③	2	1	0
4-15-27	卒業生の社会的評価を把握しているか	④	3	2	1	0

①課題

4-14-26 資格・免許取得率の向上が図られているか
 本年度、資格・免許取得率の向上を図るため、各学科において、資格取得率の向上を図るための取り組みを実施した。具体的には、資格取得率の向上を図るための取り組みを実施した。具体的には、資格取得率の向上を図るための取り組みを実施した。具体的には、資格取得率の向上を図るための取り組みを実施した。

②今後の改善方法

4-14-26 資格・免許取得率の向上が図られているか
 本年度、資格・免許取得率の向上を図るため、各学科において、資格取得率の向上を図るための取り組みを実施した。具体的には、資格取得率の向上を図るための取り組みを実施した。具体的には、資格取得率の向上を図るための取り組みを実施した。

③ 特記事項

4-15-27 卒業生の社会的評価を把握しているか
 本年度、卒業生の社会的評価を把握するため、各学科において、卒業生の社会的評価を把握するための取り組みを実施した。具体的には、卒業生の社会的評価を把握するための取り組みを実施した。具体的には、卒業生の社会的評価を把握するための取り組みを実施した。

3) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に入力した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。



4) 分野別分科会の実施

学校関係者評価委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として、分野別分科会を実施した。分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

- ① アニメ分野分科会
- ② CG・映像分野分科会
- ③ デザイン分野分科会
- ④ ゲーム分野分科会

- ⑤ AI・モバイル分野分科会
- ⑥ ネットワーク・セキュリティ分野分科会
- ⑦ DX 分野分科会
- ⑧ 情報分野分科会
- ⑨ 電気分野分科会
- ⑩ 電子分野分科会

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 29 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「適切」記入数、「不適切」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が入力したコメントを項目毎にまとめた。

3. 分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録「学校関係者評価委員会分野別分科会」にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価結果について、学校関係者による第三者的な評価を行うことで、その客観性と透明性を高め、関係者の理解を深めるとともに、連携・協力による学校運営の改善に資することを目的としています。

令和7年7月14日に実施された本年度第1回の学校関係者評価委員会では、「令和7年度自己評価報告書」に基づき、日本電子専門学校から報告のあった各評価項目について検討を行いました。本委員会は、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、学校側より丁寧な報告がなされました。

評価にあたっては、企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員（日本語学校関係者を含む）、在学生など多様な立場の29名の評価委員が参加し、それぞれの視点から各項目について評価を実施しました。各委員は、報告内容に即して、自己評価が「適切」か「不適切」かを判断し、具体的なコメントを付して意見を述べています。

今回は、「職業教育評価機構が定めた専門学校等評価基準（Ver.4）」の評価基準に則った自己点検・自己評価が実施され、自己評価で満点とならなかった項目、昨年度から自己評価が向上した項目について報告がありました。全体として、自己評価に対する姿勢は厳格かつ真摯であり、例年同様、高い基準での自己検証が行われていたと評価できます。また、常に前向きに、飽くなき探究心をもって取り組みを進める日本電子専門学校の姿勢は、多くの委員から高く評価され、強く支持されていました。現在検討が進められている中期計画「DenshiVision2030」に対する期待も大きく、今後の展開に対する関心と応援の声が多く寄せられました。

今後も、学校運営上の課題解決に向けて、評価委員の意見や指摘を積極的に活用いただくとともに、日本電子専門学校、さらには専門学校全体の教育の質の向上につながる取り組みを継続的に実施していただくことを強く期待いたします。

我々評価委員は、引き続き良い形で関わらせていただきながら、共に未来をつくっていくことをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
議長 鈴木周祐

令和7年度 日本電子専門学校 自己評価報告

教育重点項目

【0-1】NEXT10

0-1-1 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 着実に進捗しているようです。PROGの運用が就職活動で活かされることを楽しみにしています。(鈴木) ←適切
- ② とても良い試みだと感じます。(後藤) ←適切
- ③ ラーニングアウトカムの再設定で、知識技術技能の学習成果を可視化する取り組み。また、産業界のニーズに基づいた基礎的、汎用的能力の育成において、「PROG」を活用するなどが着々と進んでいることが理解できました。(舟山) ←適切
- ④ 学修成果は順調に取り組んでいると思う。(原田) ←適切
- ⑤ 学科ごとに適切な学習ができるようになってきているため続けていってほしいです。(埜村) ←適切

0-1-2 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 学生自治会の行動力に毎年驚きますが、アンケート調査も実施されたということでもますます経験を高め、後進に引き継がれていくことを期待します。(鈴木) ←適切
- ② 学生だけで行うと学生の視点が強くなるので、社会人基礎力を上げるという観点から、適宜社会人の目を入れるか企業と連携できると良いと感じました。例えば、産学連携や体験入社などを実施した場合、学生主体で共有会等を行うなど。ただ、主体性やコミュニケーション力向上にはとても良い試みだと思います。(後藤) ←適切
- ③ 細かい評価基準に則り実践されており、とても良いと思います。(木下) ←適切
- ④ クラスの代表者だけの施策に見えます。技術を学ぶ場での社会人基礎力向上に関する施策を求めます。(渡邊) ←適切
- ⑤ 学業のみならず、学生主体で様々なことを考えさせていることがよくわかりました。(舟山) ←適切
- ⑥ 社会人基礎力がどのように身についたのか目に見えて確認できたので安心する。(森下) ←適切
- ⑦ スポーツフェスティバルなどあまり話したことの無い人とも関わることができたため学生主導になっていると思います。(埜村) ←適切

0-1-3 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 校長主導で高度ゲーム制作科を新設されるとのこと。簡単ではない中、ニーズに応じた速やかかつ柔軟なご対応が素晴らしいと思います。(鈴木) ←適切
- ② ゲーム CG 分野の再編にあたり、ゲーム業界・卒業生・在校生などの調査結果の内容について説明があると良かった。(後藤) ←適切
- ③ 何でもやればいいのではなく、時間制から単位制への移行のため、一旦立ち止まり考えることは正しい選択だと思います。また、持続可能な学校の適正な運用のためには収益の確保も大事で、そのこともしっかり理解されていると思います。(舟山) ←適切
- ④ 赤字学科の分析など、丁寧にニーズを把握していると感じました。(横田) ←適切
- ⑤ 新設学科が出来ることにより本校に進学したいと考える人が増えると思うため良いと思います。(埜村) ←適切

0-1-4 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① ベストプラクティス集の共有は良いと思います。一方で、企業においては、リモートワークに対して判断が大きく分かれるところですので、週1程度というのは、ちょうどよいかもしれません。(鈴木) ←適切
- ② 企業でもリモートから出社形式に戻ってきている中、学校側で遠隔授業の効果を高めるべく実施されている点は、今後社会人になってリモートになったとしても対応しやすいと思うので良いかもしれないと感じました。(後藤) ←適切
- ③ 標準化検討として、ベストプラクティス集の作成など良い取り組みだと感じました。また、学校側の意見だけではなく、学生にアンケートを取っている点も良いです。様々な点で、しっかり学生によりそっていると思います。(舟山) ←適切
- ④ 週1日以上オンラインを活用しているとのことで、時代に先んじた対策をしていると感じました。(横田) ←適切
- ⑤ オンライン授業をうまく取り入れられていて、学生の方々からも一定数のプラス評価が出ているということですが、成績面についてはどのような影響がでているのか、コロナがあけて数年たちますので来年ぐらいに報告がお聞きできたらと思います。(亀田) ←適切
- ⑥ オンライン授業などにより、社会に出た時のミーティングなどの模擬にもなると思うため私たちのためになると思います。(埜村) ←適切

【0-2】教育全般の重点項目

0-2-1 ドロップアウト対策

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 学習要因によるものを 1.09 ポイント改善されたのは専門学校においてとても良い成果だと感じます。(鈴木) ←適切
- ② 学習面による退学率改善は、先生方の努力の成果だと感じました。個別のアプローチによるサポートも効果を発揮していそうだが、先生方の負担軽減（内部によるサポート）が必要とされてきそうに感じます。(後藤) ←適切
- ③ この課題はセンシティブですが、良い取り組みをされておりそれが成果に結びついていると感じました。(木下) ←適切
- ④ ドロップアウトの件は企業の退職者の件同様に永遠の課題と思いますが、毎回数字を見つめ、冷静に現状を把握し改善を行っている姿は私たちの勉強にもなります。(舟山) ←適切
- ⑤ 退学率が減ったということは本校の対策が適切なものだったことがわかるため、継続していただきたいです。(埜村) ←適切

0-2-2 ゲーム分野再編

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 先ほどと重複しますが、良い方針だと思います。(鈴木) ←適切
- ② ゲーム企業のデザイン部に勤めている身としては、2 年制だと短いと感じることもあったので、とても楽しい学科だと感じています。(後藤) ←適切
- ③ 再編の理由も明確ですので、正しい評価だと思います。(舟山) ←適切
- ④ 教育の優位性が高まり、進学したいと考える方たちが増えると思うので素晴らしいと思います。(埜村) ←適切

0-2-3 学校教育法改正への対応(主に単位制への移行)

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 文科省の対応がない中、難しい舵取りだと思いますが引き続き対応をお願いします。パブリック・コメントについては、日本電子さんとしてアクションされる予定はありますか？アニメ業界での案件においては、業界団体をとおして行うこともありますので。(鈴木) ←適切
- ② 単位制という新しい制度に向け「段取り八分」ができていると思います。評価 3 はやや厳しく感じますが、適正と評価します。(舟山) ←適切

- ③ これから、ということで自己評価が3となっておりましたが、来年のご報告に期待しております。(亀田) ←適切
- ④ 専門技術だけではなく、基礎学力も大切なためこれからも続けていっていただきたいです。(埜村) ←適切

基準3 教育活動

【3-12】教員・教員組織

3-12-22 資格・要件を備えた教員を確保しているか

評価結果	適切：28 96%	不適切：1 無回答：0
------	--------------	----------------

コメント欄

- ① 業界の状況が厳しいことはお察しします。そんな中で採用計画中、7名中2名採用されたことをプラスに考えるべきと思いました。兼任、非常勤を含めてうまく対応されていると思います。(鈴木) ←適切
- ② 難しい課題であると実感しました。(後藤) ←適切
- ③ 適切ですが、この課題は世の中多くが抱えているものと認識しています。引き続きのご尽力に期待しています。(木下) ←適切
- ④ 教員の確保は非常に難しく大変かと思われませんが、その必要性から必要な人数目標を掲げており、また教員の確保は、現在の教育の質を維持する上でも最重要であると考えられることから、目標達成に向けた施策や活動についての課題改善は急務と考えられます。民間企業などとの賃金格差などの問題もあるかもしれませんが、未来ある若い人材の育成や将来への投資であることなど、社会意義の強い仕事であることなどをより訴求することも必要ではないかと思います。
(佐々木) ←不適切
- ⑤ 要件を満たした教員の方はいるとのことですので、適切とさせていただきました。採用活動は難しいと思いますが、CG-ARTSでも良い人材がいらないか、日々の活動の中で探したいと思います。(宮内) ←適切
- ⑥ 今後、能力に長けた人材の確保は企業同様に厳しくなると思います。質を落とさず、設置基準を順守し頑張っている点は理解しています。7名採用予定が2名だったことは残念ですが、今後も良い教員を採用してください。(舟山) ←適切
- ⑦ 教員の確保はこれからも続けて。(原田) ←適切
- ⑧ 教員の内情を知ることができて安心した。(森下) ←適切
- ⑨ 困ったことや、社会に出た時の体験談など気軽に話ができる雰囲気があるため、一人で抱え込まずに楽しい学校生活を送れています。(埜村) ←適切

基準 4 学修成果

【4-14】資格・免許の取得率

4-14-26 資格・免許取得率の向上が図られているか

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 成果のご報告としては十分だと思います。ただ、アニメ業界との兼ね合いで言うと、ミニマムスタンダードの資格取得はなかなか設定が難しいところだと思います。この点は、いろいろと引き続き意見交換できればと思います。(鈴木) ←適切
- ② 資格・免許の取得は学校視点から見れば教育の質保証が目的ですが、学生にはどのような目的で認識されているのかが気になりました。学科によって資格・免許の重要さは異なるとは思いますが、取得することによってどのように今後の授業が変わるのか(理解力が変わるのか)、今後の制作に活かせるのかを明示できたら、取得率安定とともに意識も変わると感じました。(後藤) ←適切
- ③ 若干取得率がさがっているものの、年々新しいジャンルがくるのに対応することは学校側も学生側も難しい問題だと思います。何か落ち着かない時代性を感じています。今後に期待です。(木下) ←適切
- ④ 資格・免許の取得率に関しては、目標設定も学生に対し、しっかりしており、未達学科へのヒアリングなども向上に向けた良い取り組みだと思います。(舟山) ←適切
- ⑤ ミニマムスタンダードの資格取得について適切に評価されていると存じます。これとは他に目標(プラスアルファ)となるような資格の取得率についてどのように評価されているのでしょうか。疑問に思いました。(谷) ←適切
- ⑥ これからは資格・免許が大事だと思うので、重点的に進めてください。(原田) ←適切
- ⑦ 資格取得に対し、先生方や先輩方の勉強法など知ることができるため前向きに取り組んでいます。(埜村) ←適切

基準 5 学生支援

【5-16】就職等進路

5-16-28 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 十分なご対応を頂けていると思います。ただ、アニメ業界においては、かなり採用活動の早期化が進んでおります。このような状況に、どのように対応されるかも重要になってくるかと思えます。就職活動ダイアリーがどのようなになっているのか気になります。諸々大変だと思いますがご検討いただければと思います。(鈴木) ←適切

- ② とてもしっかりとサポートをされていると感じました。(後藤) ←適切
- ③ 多岐にわたる業種への様々な取り組み、単純にすごいことだな、と感心しております。(木下) ←適切
- ④ 就職に対する支援体制について、学生の 100%の就職率を目指していることは素晴らしいと思います。そのための人員配置や就職に向けた準備サポートなども充実していると考えます。(舟山) ←適切
- ⑤ 求人の獲得、就職希望者の支援など丁寧に対応されていると感じました。(横田) ←適切
- ⑥ 留学生の視点からみても御校の就職サポートと就職率の高さに魅力を感じて御校を志望する学生が多いです。(亀田) ←適切
- ⑦ 就職に関してはこのままでいいのでは。(原田) ←適切
- ⑧ キャリアセンターをしっかりと活用し、就職に立ち向かえたのでとても良かった。(森下) ←適切
- ⑨ キャリアセンターや先生方のサポートがあることはすごく心強いありがたいです。(埜村) ←適切

【5-17】 中途退学への対応

5-17-29 退学率の低減が図られているか

評価結果	適切：28 96%	不適切：1 無回答：0
------	--------------	----------------

コメント欄

- ① 退学率の低減については十分な対応がされているかと思います。特に学習理由の低減が 1.5%改善したのは良いところです。まず学校に来てもらうということが大事という姿勢が良いです。(鈴木) ←適切
- ② 留学生や進路が決まっていな方などとりあえず入学という学生もいると聞きます。体験入学を実施しているのは良い試みだと思うのでここをもっと強固にできたらよいと感じました。(後藤) ←適切
- ③ 高い出席率とだんだんと減ってきている退学者に、学校のブランドが上がっているのでは、と感じました。(木下) ←適切
- ④ 充分に対策されているのではと感じました。(宮内) ←適切
- ⑤ 退学率についても、組織的・学生指導体制サポートが整っていると感じています。その成果として、7.91%と退学率が下がっていると考えます。経済的理由などもあるため、学校側で対応できない理由もあると思いますが、今後も頑張ってもらいたいと思います。(舟山) ←適切
- ⑥ 対策としては十分に取られていると判断します。「適切」④の評価で良いと思います。(米井) ←不適切
- ⑦ 個別面談はとてもコストがかかる対応手法と想定します。コスト（対効果）について評価の上、無理のない対応を期待します。(谷) ←適切
- ⑧ 引き続き改善、対策をよろしくお願いいたします。(高橋) ←適切
- ⑨ 学習以外の割合も知りたい。(森) ←適切

⑩ 適切であると思います。(埜村) ←適切

基準 7 学生の募集と受入れ

【7-25】学生募集活動

【7-25-45】学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか

評価結果	適切：29 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 今年度 1430 名の入学というところに結果は出ているかと思います。引き続きよろしくをお願いします。(鈴木) ←適切
- ② 募集は効果的に行われていると感じます。入学させる人事側と広報がなにかうまく連携できるとミスマッチのない学科選択ができ、良いと感じました。(後藤) ←適切
- ③ 現在、学生の確保は大変と想像されますが、種々の積極的な取り組みをされており、また結果も伴っていることから、大変素晴らしい取り組みであると思います。(佐々木) ←適切
- ④ 昨年とぴったり同数とのこと、募集が難しい中、大きな成果と感じました。(宮内) ←適切
- ⑤ 学生募集は特にスケジューリングが大事だと思いますが、計画通りかつ効果的に行っていると思います。夜間部の授業見学会はユニークな取り組みで良いと思いました。(舟山) ←適切
- ⑥ OC や対象別の説明会実施など、しっかりされていると感じました。(横田) ←適切
- ⑦ 留学生のための説明会の実施、感謝しております。(亀田) ←適切
- ⑧ 私もインターンシップで参加した時に本校の素晴らしさを知ることができたので良いと思います。(埜村) ←適切

総合評価 【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

- ① 自己評価についてご報告いただきありがとうございました。常に自らを律し、厳しい評価をされていると感じました。教職員の皆様が一丸となり、学生の皆様に寄り添いながら改善に向けて尽力されていることを深く理解いたしました。その取り組みは非常に素晴らしいものと感じております。また、学業面のみならず、学生主体のイベントを開催し、コミュニティ形成を促進されている点につきましても、今後社会に出られた際にも陳腐化することなく役立つ貴重な経験となるものと存じます。今後のさらなる改善活動に期待しております。何卒よろしくお願い申し上げます。(伊藤)
- ② 毎年、積極的な姿勢を取られていることに信頼、好感を持っております。引き続

きよろしくをお願いします。アニメ業界においては、人材育成確保がなかなか難しくなっておりますので、貴校としてのお取り組みがより、各学科に反映されることを期待しております。(鈴木)

- ③ オリジナルスケジュール手帳で学校側の予定や、就職までの大まかな流れが記載されていると便利だと感じました。デジタル化が進んで手帳自体を使用しない学生が増えてきていると思いますが、自己管理の面からも推奨し浸透できると良さそうと感じました。(後藤)
- ④ 毎回、継続した取り組みと新しいことへの挑戦がみられるのは、常日頃からの御校のご尽力成果だと感じました。引き続きのご努力に期待しております。(木下)
- ⑤ 各項目について適切に現状把握及び課題分析をされており、適切に自己分析されていると思います。また、課題に対する改善施策等も適切に実施されており、様々な課題に対する改善がみえていることも評価できる点だと思います。特に興味深かった点としては、学生自治会や学生主導で学校行事を取り組むなど、学生の主体性な取り組みを促進されていることは非常に良い取り組みであるとも感じました。こういった取り組みを通じて、社会性や能動的な思考が養われると思いますので、今後も学生主体の活動を支援していただけることを期待しています。引き続き、よろしくお願いします。(佐々木)
- ⑥ 単位制となった後、学生さんの質がどのように変わるのか楽しみです。(宮内)
- ⑦ 目標・実績に対する評価と、不足している点に対する改善案が明確に提示されており、教育について真摯に取り組まれていると感じました。(中野)
- ⑧ 毎回素晴らしい取り組みに感謝しています。少子化が進む中、本当に良い学校が選ばれる時代になってきたと思います。ぜひ今後も日本の実践的教育のリーダーとして、がんばっていただきたいと思います。(舟山)
- ⑨ 多岐にわたる項目を丁寧に検証し評価していると思います。問題点・課題の絞りこみから対応策の立案までも的を射たものになっていますので、こうした取り組みを今後も継続していただけたらと思います。(米井)
- ⑩ 適切に自己評価がなされています。厳しく評価されている項目について、きちんと課題を抽出し、課題解決への取り組みを進められています。(西郷)
- ⑪ 「生成 AI 利用に関するガイドライン作成」など環境変化に対して確実に対応されていることが素晴らしいと感じました。(谷)
- ⑫ 学校の経営はこのまま進めていってほしいです。(原田)
- ⑬ 新たな改善に取り組んでいただき、引き続きよろしくお願いいたします。(高橋)
- ⑭ 教員の皆様、学校運営のスタッフの皆様の絶え間ないご尽力に感謝申し上げます。中途退学の割合が上がりましたが、まだ人数としても多いように思います。個別対応も大変かと思います。外部からの支援もあって良いように思いました。(岡本)
- ⑮ 課題を ex2 というものに提出して、教員が 1 つずつ確認しているが、その課題が完了になるまで次の課題ができない時があり、教員が確認してくれるまで時間がかかり困っている。(岩永)

IV 令和7年度第一回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和7年7月14日 13:30～16:45

場 所：日本電子専門学校 メディアホールおよびオンライン（Teams）

学校関係者評価委員：

名 前	所 属 （役 職）	区 分
鈴木 周祐	株式会社ぴえろ	企 業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	
伊藤 好宏	JTP 株式会社	
宮内 舞	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会	職能団体
中野 正	一般社団法人ソフトウェア協会	
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会	
舟山 大器	一般社団法人 日本 PV プランナー協会	
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	高校教員等
横田 えりか	第一学院高等学校	
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	日本語学校
谷 伸城		卒業生
大曾根 良孝	日本電子専門学校同窓会	理事

高橋 美登里		ご父母
岸本 美香		
岡本 忠司		
田野 滋子		
森 清子		
原田 識義	百人町西町会（会長）	地域住民
下園 紗月		在校生
森下 晴紀		
岩永 礼矢		
伊東 凜		
小倉 昊太郎		
葛巻 沙織		
埜村 萌花		

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
杉浦 敦司	校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
高橋 陽介	学事部 部長
木村 佑	学生募集部 部長
井上 直樹	キャリアセンター センター長

船山 世界	総務人事部 人事部門 部長
君塚 信和	管理部 部長
長野 善朗	財務経理部 部長

進行：

- | | | |
|-------|------------------------------------|----------|
| 13:30 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 杉浦 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 13:50 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（鈴木委員） |
| | 6. 自己評価結果の解説とその評価の報告 | |
| | 教育重点項目 | 杉浦 |
| | 基準3 教育活動 | 船山 |
| | 基準4 学習成果 | 大川 |
| | 基準5 学生支援 | 井上 |
| | 基準7 学生の募集と受入れ | 木村 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 15:00 | 7. 令和7年度教育重点項目 | 杉浦 |
| 15:10 | 8. 意見交換 | |
| 15:30 | 9. 全体会終了 | |
| 15:45 | 10. 分野別分科会（企業・職能団体委員） | |
| | 分野ごとに対面及びオンライン会議システム（Teams や Zoom） | |
| | を利用し実施 | |
| 17:00 | 11. 分野別分科会終了 | |

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【（企業／情報）合同会社ワタナベ技研 渡邊様】

いろいろ聞かせていただいて、大変努力され取り組んでいると思いました。教員採用もしくは学生のフレームワークという話が前半にあったと思いますが、新設学科開発フレームを活用した調査・検討がどういうものか。DX等をやられるのは良いと思いますが、本当に需要があるのかどうか。特にDXは分野が広くどのテクノロジーを対象にするのか悩ましいと思いました。説明を伺って、昔のエンドユーザーコンピューティングとかシステムアドミニストレーターの資格の話を想像したところがありますので、各ドメインでの仕事がありきでテクノロジーを加えるという観点だと思ったのでそこをはっきりしながら、また就職先や採用においてはDXという言葉自体が一般の課程では分からないかと思いますし、採用においてはどんな人材が育てられたのか明確にしながら取り組んでいただければと思います。

【（職能団体／電気）舟山様】

いつも参加させていただいていますが、ずっと毎回新しいことにチャレンジしながら改善されている点は大変素晴らしいと思います。尚且つ、聞いていて思ったのですが、精度が上がっているという部分では非常に感心しております。なかなか企業でも改善提案はなかなかできにくいところがございますので、マイナスのところはなく、どちらかというと本当に素晴らしいと思っております。

【（高校教員等）第一学院高等学校 横田様】

教員や生徒募集の工夫に関して改善されていて素晴らしいと思いました。Google meetに変えていてオンラインでの音が聞こえにくいというか、いろんな音を拾っていて少し話がわかりにくいというか、ちょっと聞き取りにくい部分があったというのが正直な感想でした。

【（卒業生）谷様】

毎年参加させていただいていつも勉強させていただいていることが多いのですが、一点感じたのが「0-1-1-2 産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成」という項と、「0-1-2 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実」というところで、どちらも専門的な技術的なスキルとは違う面のところとは思いますが、こちらについて、どちらもジェネリックスキル診断テスト（PROG）を両方とも活用されるのはどうかなと感じました。また、先ほど挙げた二つの項目で担当されている職員または教員の方が異なるかもしれませんが、連携してうまく分析・評価を一緒にやって

みるのも良いのかと感じました。今後も専門的なスキルはもちろんなのですが、それ以外の教育についても頑張ってください。

【(企業／ネットワーク) ストーンビートセキュリティ株式会社 相原様】

今回、ジェネリックスキル診断が非常に良い取り組みだと考えております。勉強ができればいいということではなくて、スキルが非常に大事だと思っておりますので、そのような取り組みについては継続していただければ思っております。ただ、入学するタイミングもしくは卒業するタイミングというところで評価はされますが、社会人として何をすべきであるかといったところの指導の取り組みがあると良いかと思いました。二点目としましては、オンライン授業は非常に生産性が上がるということで、企業も積極的に活用しており、非常に良い取り組みではあるという一方、対人関係で実際にリアルに対面した時に会話がうまくできないとか、コミュニケーションスキルの低下が懸念されるというところだと思います。採用活動している中でリモートだとはきはきと回答ややりとりができますが、実際に対面だと意外に物怖じしたりするところが結構見受けられるところがありますので、うまくリモートと対面を使い分けていければ良いと思います。コミュニケーションは円滑にといったところで、難しいことだとは思いますが。それに伴ってドロップアウトの問題も出てくるのかと思いますが、やはり対人関係の問題といったところもあるかもしれないので、そういったところが少し懸念されるのかと思っております。これは別に学校だけの話ではなく、一般企業でもやはり同じような課題をかかえております。学校の方でその場でフォローしたとして、社会に出たときに同じようなことが起きてしまうといったところが懸念されるところがありますので、かなり難しい問題なのかというところで企業としてもそこは課題だと思っております。最後に、資格取得に関して積極的にというところで 100%がミニマムスタンダードで非常にいい取り組みだと思いますが、一方で企業にとってそれが採用の一つの目安になることは間違いないので 100%合格ではありますけれども、伸びる子たちにはどんどん上位の資格を取らせるような仕組みといったところもご検討いただければと思っております。

【(職能団体／CG・映像) CG - ARTS 公益財団法人 画像情報教育振興協会 宮内様】

感想になってしまいますが、途中退学者の退学のところで様々な要因があるということだったのですが、①学習のところが理由となって退学された方が減少されたということですが、ここが一番学校としてサポートできるところだと思いますので、そこが減ったことは素晴らしいことだと思いました。また、CG - ARTS 検定の資格取得に取り組んでいただきありがとうございます。エキスパートは社会人の方でも合格率が少し低くなってしまう難しいところですが、そこをクリアされた学生には表彰とか成績証明書にも記載しているとのことで、学力の向上はもちろんですが、学修のモチベーションアップといったところも考えられていて良いと思いました。

【(地域住民) 原田様】

学校の経営とか募集とか詳しいことはわかりませんが、学生さんがもし地域の活動に参加していただけるなら、ぜひ参加していただきたいと思っています。日本電子の学生さんはまだあまり問題を起こしていないと思いますけど、この地域には日本語学校や専門学校がたくさんありまして、清掃の活動をする度に煙草の吸い殻がたくさん出ています。それは学校の学生さんのせいではないと思いますが、世の中禁煙の時代なのになぜこんなにどんどん煙草の吸い殻が増えていくのかといつも不思議に思っています。学生がやっているのかわかりませんが、何かありましたら学校の授業の中でも指導してもらいたいと思っています。いつもよく地元には協力していただいて感謝しております。

【(父母等) 高橋様】

いろいろ細かい説明をしていただいて新しい改善をいろいろ取り組んでいただいてありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

【(在学生) 江藤様】

全体的な所感といたしましては、すごく適切に活動が行われているのではないかと感じました。私自身も就活の際にキャリアセンターを活用し、サポートを受けましたので、いろいろな方がそのようなところで尽力されているのだと感じました。学生の私としての意見ですが、退学率低減の対策といったところがあると思いますが、私の学科自体すごく退学者が多くいまして、2 クラスだったのですが、今現在 1 クラスで運営している状態ですので、学科毎によって対策の仕方も変えていくのも良いのではないかと感じました。また、資格に関してなのですが、費用面によって断念してしまうような学生もいるのではないかと感じました。私自身も最近資格を受けたのですが、授業で習ったことに対する資格だと 20,000 円ものお金がかかってしまうので、企業に入ってから資格を取得する人も多くなってきています。そういった費用面であったり、2 年に上がってからは多忙な時期ということもあって、2 年では資格取得が難しいため 1 年でどれだけ資格を取得できるかといったところのサポートが重要になってくるのではないかと感じました。

【(企業／アニメ) 株式会社ぴえろ 鈴木様】

今しがた、学生代表の江藤委員からのお話でかなり生産性のある込み入った部分の質問だなといったことで、私としては学生の皆さんがこういうことを真剣に考えられているところにいたく感心いたしました。自治会というところに力を入れられているところも、私も採用面接を通してやはり学生の社会性というところを感じるところでもありますので、そこは引き続き頑張っていただければ学生さんの就職に対してもすごくいい効果が出てくるかと思いました。今回、全体を通してやはり中途退学ということへの質問等がすごく多かったという印象を受けました。私は先週地方面接の兼ね合いで、多くの地方の専門学校を回ってきました。学生の皆さんともお話を聞いてきたのですが、やはり 1 年時において入学してすぐ専門性の高い修学という点で、追い

つけない、思ったよりも自分がついていけないというのを感じて、ドロップアウトしていくという話を多く耳にしました。その意味ではデータ上、特に学習の項目についての低減がなんとか食いとどまっているというところは、学習支援の項目ではやや不適切という評価でしたが、私としてはすごく頑張られているのかと感じましたし、江藤委員からもありましたけれども、数字というところではそれぞれの学科ごとに認識が異なると思いますので、そういったところをさらに細かく見ていただくことでより一層この項目に対しての対策が進んでいくのかという風に感じました。最後に、船山校長が冒頭申し上げていましたが、法改正を通してこれから御校にとって、業界を支えていくという意味でも期待されるところも大変多いかと思ひますし、我々産業界としても国際競争というところに力を入れいくために専門学校の皆さんがより良い教育を実施され、優秀な学生さんを輩出されることに対しては大変期待しておりますし、我々も協力できることは精一杯やっていきたいと思ひますので、今後の発展につながりますようお願いいたします。

2. 分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和6年度教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学・進級卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況
 - ・コロナ禍対応
 - ・教育課程編成委員会の意見の活用状況 等
3. 意見交換
4. その他

【分野】

- ① アニメ分野分科会
- ② CG・映像分野分科会
- ③ デザイン分野分科会
- ④ ゲーム分野分科会
- ⑤ AI・モバイル分野分科会
- ⑥ ネットワーク・セキュリティ分野分科会

- ⑦ DX 分野分科会
- ⑧ 情報分野分科会
- ⑨ 電気分野分科会
- ⑩ 電子分野分科会

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月14日（月）15：45 ～ 17：00

場 所： 日本電子専門学校 7号館5階 752教室

分 野： アニメ分野

学 科： アニメーション科、アニメーション研究科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）鈴木 周佑 様 株式会社ぴえろ 人事総務部

（合計1名）

②日本電子専門学校

坪井 翔

アニメーション科 学科長

（合計1名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和6年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学、進級・卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
 - ・教育課程編成委員会の意見の活用状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 令和6年度の教育活動に関する報告

議題1 就職状況について

アニメーション科（2年制） 就職率 100%

アニメーション研究科（3年制） 就職率 100%

<意見>

- ・しっかり業界に就職できているようでよかった。

議題2 休退学・進級・卒業状況について

アニメーション科（2年制） 1年次：88.88% 2年次：97.43%

アニメーション研究科（3年制） 1年次：85.71% 2年次：96.66% 3年次：96.96%

<意見>

- ・この数字（休退学者数）は「まずまず」ではないか。
- ・欠席が多い学生は不足している時間数分の課題を消化しているとの事だが、単位制になった場合はどうなるのか？

議題3 目標資格の取得状況について

色彩検定3級以上取得者

アニメーション科（2年制） 1年次：51% 2年次：64%

アニメーション研究科（3年制） 1年次：41% 2年次：76% 3年次：57%

<意見>

- ・色彩検定の取得者は3～4割くらいと想像していたが、6割は「多い」と感じた。
- ・目標資格にバラエティはあってもよいと思う。
- ・やはり日本語能力試験の1級（相当の日本語力）がないとどこも厳しい状況で、特に制作志望は取得の必要性を感じる。

議題4 各種教育活動の状況（特別活動・プロジェクトなど）について

<意見>

- ・井之頭公園でのスケッチ活動は有意義だと思う。次年度以降継続するならバリエーションがあつて良いと感じる。例えば、上野美術館や上野動物園で美術鑑賞会とスケッチが実施出来る。あるいは都内のフードフェスに参加して『食事を提供する人』『食べる人』など様々な生活芝居を観察することができるのではないか。

- ・弊社では井之頭公園でお花見を実施していて、同期や先輩とコミュニケーションをとれる機会を提供している。

議題5 教育課程編成委員会の意見活用について

<意見>

- ・業界的には就職活動が早期になっていることへの対応に関心が高い。採用試験もデジタル環境で行う企業が増えているので今後カリキュラムの検討課題にしていはいはどうか？

ま と め： 令和6年度の教育活動に関する報告について、高い評価をいただきました。一方で、企業の採用時期が早まっていることに伴い、2年制学科の就職状況において3年制学科との差が生じる可能性が指摘されました。なお、目標資格については、留学生の日本語能力が採用に大きく影響することから、引き続きN1取得に向けた取り組みを検討していくこととしました。また、同社の採用試験に関する最新情報や合否判定基準、若手社員の動向など、貴重なお話を多数伺うことができました。これらの情報は、本校の教育内容の改善に役立つ多くのヒントを含んでおり、委員から頂いた意見を学科内で共有し、教育の質向上に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月14日（月）15:30 ～ 16:30
場 所： 851 教室
分 野： CG・映像分野
学 科： コンピュータグラフィックス科、CG 映像制作科、コンピュータグラフィックス研究科
出 席 者： ①学校関係者評価委員

（団体）宮内 舞 様
公益財団法人 画像情報教育振興協会(CG-ARTS)

（合計1名）

②日本電子専門学校

岡野 正信 コンピュータグラフィックス科 学科長
永井 紀雄 CG 映像制作科 学科長
金 統一 コンピュータグラフィックス研究科 学科長

（合計3名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和6年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学、進級・卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
 - ・教育課程編成委員会の意見の活用状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題 令和6年度の教育活動報告について

<報告と意見>

令和6年度のCG・映像分野3学科のクラス毎の就職一覧をご覧いただきながら、学生の就職状況について詳しく報告した。就職先については、映像業界、アニメ業界、ゲーム業界と様々ある中で、ゲーム業界希望者が多いコンピュータグラフィックス科については、学科を取り巻く環境や状況の変化、本校ゲーム分野との関係性などについての補足説明も行った。

今後の就職活動支援については、企業説明会の実施を1年次も含めて増やしていくことについて議論が行われた。また、面接対策の重要性も話題となり、壁打ち相手としてAIを活用する面接練習などが紹介された。

資格取得については、CGクリエイター検定ベーシックの合格者数の増加とその対策講座の状況について報告した。併せて、現在、任意受験となっているCGクリエイター検定エキスパートとCGエンジニア検定エキスパートの合格状況と、今後どのように受験者を増やしていくかの意見交換を行った。また、CG検定の合格者がどの程度CG関連業界に就職できているかをわかるようにしていくことになった。

業界と学校から注目が高まっているアニメーション実技試験については2年制学科の学生が受験しやすい時期について要望を述べた。また、計画中の対策講座についての説明を行った。

ま と め： 委員から業界や企業の状況や他校の事例について具体的な情報を得るとともに、本校からの意見や要望もお伝えすることができた。今後も様々にご協力を賜りながら、各学科の教育活動や検討に役立てていきたい。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月28日（月）14：00～15：15

場 所： 日本電子専門学校7号館7階2番教室

分 野： デザイン分野

学 科： グラフィックデザイン科・Webデザイン科

出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) 木下 幸弘 株式会社ジェイスリー 顧問

(1名)

②日本電子専門学校

植田 誠一 グラフィックデザイン科 学科長

小山内 靖美 Webデザイン科 学科長

(2名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和6年度教育活動に関する報告（Webデザイン科・グラフィックデザイン科）
 - ・就職状況
 - ・休退学、進級・卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動授業、コンテスト・大会、プロジェクトなど）
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 報告1 Webデザイン科の令和6年度教育活動報告について

- ・休学・退学・進級・卒業状況
- ・就職状況（内定率、内定先、職種別内訳）
- ・目標資格取得状況
- ・学科の取り組み（コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動）
- ・今年度の新入生について
- ・教育課程編成委員会での意見の活用状況

報告2 グラフィックデザイン科の令和6年度教育活動報告について

- ・休学・退学・進級・卒業状況
- ・就職状況（内定率、内定先、職種別内訳）
- ・目標資格取得状況
- ・学科の取り組み（コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動）
- ・今年度の新入生について
- ・教育課程編成委員会での意見の活用状況

<ご意見>

議題1 AIについて

- ・言葉にする力、コンピュータが解読できる「言葉」を使えるかが大切です。
- ・AIは、人間のように感情を実際に体験することはできません。しかしながら、その感情を言語として理解・分析して表現することはできます。
- ・AIや自動化が進むことで、従来「人間がやっていた作業」が機械に置き換わりつつあります。特にオペレーター（指示通りに操作・処理を行う人）のような仕事は、AIやソフトウェアによって代替されやすい領域です。つまり、学校教育では「考える力」を身に付けさせることに重点をおいた教育が重要。
- ・画竜点睛（がりょうてんせい）、物事の最後に、最も重要な部分を加えて全体を完成させるのは人間ということをお忘れなく。
- ・留学生のプレゼン指導に関してAIを利用するのは教育手法として有効だと思う。

- ・チーム制作におけるディレクション能力に関しては現状ではAIは人間に劣る。人は人にしか管理できないのでAIを使いこなせるディレクション能力の育成が必要。
- ・想像力を伸ばす教育を考えた際に、グラフィックデザイン科の新規開講科目「クリエイティブ」は理にかなっている。

課題2 就職について

- ・ポートフォリオについて、企業は紙媒体を見ないケースが多くなってきているので、メインはWebで、補助的に紙を使うのが今の現実的なバランスなのでは？
- ・グラフィックデザイン科は、従来のポートフォリオの紙媒体でもよいが、効率よく見てもらえるようにパンフレット形式にしてもよいのでは？
- ・今後のクリエイティブ系の就職やキャリアにおいては、「つくる力」だけでなく、「ディレクション力」をアピールできることが、ますます重要になります。
- ・留学生採用企業が限られている現状で、日本人と留学生の就職指導内容を分けることも課題として考えられる。

以上

令和7年7月18日

関係者各位

令和7年度
第一回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時：令和7年7月15日（月）15：45 ～ 16：45

場 所：441教室（オンライン会議）

分 野：ゲーム分野（ゲーム制作研究科、ゲーム制作科、ゲーム企画科）

出席者：①学校関係者評価委員

後藤 宗亮 様 株式会社ファンコーポレーション 第4研究開発室 課長

（合計 1名）

②日本電子専門学校

栗原 央道 ゲーム制作研究科 学科長

松島 秀夫 ゲーム制作科 学科長

伊藤 靖彦 ゲーム企画科 学科長

（合計 3名）

次 第：

1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和6年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・ドロップアウトの状況
 - ・質保証に対する資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
3. 意見交換
4. その他

議 事：議題令和6年度の教育活動報告について

<報告 / ゲーム制作研究科>

CU科の2024年度ドロップアウト実績は2024年3月～2025年3月までの休退学者8.307%。

退学者全体 26名 学習 12名 学業不振 2名 心的 9名 出席不足留年 1名

家庭事情 2名

<意見>

昨年、9.02%から1%低下 引き続き5%を目指せるように進めて参ります。

<対外的活動>

ドラマ案件3件（フジテレビ ビリオンスクール・モンスター、WOWOW ゲームの名は誘拐）にてゲームコンテンツの開発を実施し、放映された。

専門学校コンペティションにて3年生「しんかい」がビジュアル賞を受賞した。

<意見>

対外的活動に関してご理解を頂きました。

<就職活動>

学科全体で 96.3%

R6 年度実績 就職状況

3 年生 95 名（在籍数）

22CU（3 年生）

就職内定 進路決定率 97% 就職率 1 組 93% 2 組 96% 3 組 100% （平均 96.3%）

ゲーム企業

就職希望者 84 人 17 名内定 20%

就職傾向

R6 年度の就職に関して、IT（特にスマホ・WEB）企業に興味を持つ学生が多い。コンテンツ企業に関して興味を持つ学生が少なくなっている。（前年度も同様な傾向）

<意見>

今後も継続して指導をお願い致します。ゲームを希望する学生が少ない、業界としても人材サイクルとして確保したい状況なのでお願い致します。

<資格目標>

22CU 情報デザイン・B 検 100% 23CU 情報デザイン 100%/B 検 89%

<意見>

概ね理解をして頂きました。

<令和 6 年度 第 2 回 ゲーム制作研究科 教育課程編成委員会 ご意見・活用報告>

令和 7 年新設科目「ゲーム CG デザインⅣ」の方向性と内容について

これまで本科は、グラフィックス科目の設定を 2 年次前期で終了していたが、新たに 3 年次前期にグラフィックス科目「ゲーム CG デザインⅣ」を設定、令和 7 年 4 月より運用を開始する。（以下割愛）簡易的に学生へアンケートを取り半数以上の学生が理解・活用をしていることを報告。

<意見>

業界全体の人不足（現役世代が 50 代を超えてきている）の為、本授業も含めて人材育成は急務であるご意見を頂きました。

<報告 / ゲーム制作科>

■ 就職状況について

就職希望者に対する就職率は94.7%（昨年100%）

ゲーム業界への就職は11名（昨年より3名増加した）

内定した学生の7割がプログラム関連の職に就いている。

<意見>

質問：就職率低下の原因は何か？

回答：就職率低下の一因として、留学生の内定率低下が考えられる。主な理由として日本語能力の問題が挙げられるが、それ以外の要因についても詳細な分析（提出書類の確認や模擬面接等）が必要であると考えている。

■ 休退学進級卒業状況について

23CI（3月卒業生）：卒業率96.4%

24CI：進級率81.6%

昨年より進級、卒業率が向上した。ただ、進級せずに大学等への編入をする学生が2名いた。

<意見>

質問：進級・卒業率が向上した原因は何か？

回答：各担任による個別指導の賜物である。また、コロナ禍が収まり、学生の心理的な負担が軽減されたことも要因と思われる。

■ 目標資格について

情報検定 情報活用試験 3級（J検）

ビジネス能力検定 ジョブパス 3級（B検）

23CI（3月卒業生）：99.4%（両資格とも1名不合格）

24CI：J検93.6%、B検95.1%（残り数名）

25CI：7月中旬にB検受験を実施、J検は12月実施

<意見>

残りの学生への指導も引き続き期待している。

■ 各種活動状況について

学科連携作品の紹介

1年生4作品、GamePitTokyo2025他

2年生2作品、東京ゲームショウ2024、東京ゲームダンジョン7他

<意見>

2年制学科でこれほどの作品制作ができるのは素晴らしい。今年の東京ゲームショウ出展作品も期待している。

■ 教育課程編成委員会からの活用状況について

【議題】 科目「C言語Ⅱ・Ⅲ」の学習内容・単元の再編について

デザインパターンの学習は、標準的なカリキュラムから除外する。

「C 言語Ⅱ」ではポインタの基礎を、「C 言語Ⅲ」ではクラスの基礎を徹底的に学習することに重点を置く。

授業内でソースコードの変化を定期的に扱い、関数、ポインタ、構造体・クラスを学習する中で、ゲームプログラミングを例に具体的な変化を示すことで、学生が成長を実感し、モチベーションを高められるようにする。

今回の再編は、これまでの詰め込みすぎた内容を見直し、学習サイクルと学生の理解・定着を重視したものである。今後もテスト結果などを踏まえ、シラバスの改善を継続する。

【議題】 1 年生前期「作品評価」の授業運用に関して

委員会からの意見を活用し、今期のレポートテーマは、以下とした。

「自身が最も購入しないと考えるゲームを選び、そのセールスポイントと独自の購入意欲喚起の観点をまとめ、報告する」

これは、ゲーム分析だけでなく、「自身の感情を言語化する力」を養うことを目的する。

<意見>

入学する学生に合わせた授業改善は大変だと思うが、業界就職希望者を増やし、熱意のある学生を業界送り出して欲しい。

<報告 / ゲーム企画科>

◆就職状況：就職希望者30名 内定者27名（1名進学）

・エンターテインメント業界：16名

ゲームプランナ 7名

遊技機プランナ 2名

ゲームプログラマ 3名

プロデューサー 1名（ゲーム会社起業）

制作進行 2名（アニメ・WEB コンテンツ）

アミューズメント運営企画 1名

・その他

IT業界：8名、飲食：1名、介護：1名、自衛隊：1名、未内定：3名

<意見>

2年制課程という短い就業年数だが、ゲーム内定者が多いなど、状況を理解して頂いた。
ゲーム会社を起業する学生がいる事に驚き。

◆休退学進級卒業状況

23CR：卒業率97.6%（退学1名）

24CR：進級率71.4%（退学11名/転科1名）

10名以上の退学は、近年ない状況。大学受験に失敗し、繋ぎとして入学をした学生が多く
例年になく状況が、この様な結果に繋がった。学習意欲や病気、経済的な問題を理由に、退学
をした学生も少し多い状況だった。

<意見>

Q. 今後どの様に改善をしていく予定なのか。

A. 体験入学の段階から専門学校は「就職」を目指す場所であること、学習をするために
入学をしてほしいなど、改めて入学検討者に伝えていくことを徹底。当たり前の事だが
その部分を、しっかりと伝えていく運用へ変更した。

◆目標資格の取得状況

23CR：97.7%

24CR：100%

<意見>

継続して資格取得を、高い数字で維持してほしい（出来れば100%）

◆各種活動状況について

・東京ゲームダンジョン2024

・東京ゲームダンジョン7

・GamePit2024（制作科と共同）

- ・ゲーム分野合同作品展示会
- ・全国専門学校ゲームコンペティション

<意見>

作品制作だけではなく、外部イベントへ参加している事も良い。今後も継続して作品制作と出展をしてほしい。

◆教育課程編成委員会からの活用状況について

【議題1】オリジナル教材「企画構成メソッド」

【議題2】オリジナル教材「ターゲット設定メソッド」

近年の学生は「同じことを繰り返すだけ」「やる事が1つだけ」「反射神経のみで、プレイヤーが考える事が無い」など、遊びになっていない企画立案ばかりのため、立案するためのメソッドを作成。また、ターゲットも「20代男性」「アクション好き」など、曖昧な設定ばかりのため、こちらもターゲットの洗い出しを行うメソッドを作成。漠然と考えずに、ポイントを絞って、企画立案させる様に授業運用をしている。

<意見>

漠然と考えずに、方向性を示す事は良いと思う。目的を明確にして、企画立案をさせていく事でより良くなると思うので、頑張してほしい。

<まとめ>

ゲーム業界へ就職させるために、技術習得や作品制作・作品の展示など、各学科が試行錯誤をしながら取り組んでいる事は、ご理解頂けた。この取り組みが、結果として「ゲーム業界就職率向上」に繋がらなければ意味がないため、頂戴したご意見と共に、さらに向上できる様に、カリキュラムや、分野全体の取り組みを検討していきたい。ゲーム業界への就職率は、高い状況ではないため、新しい取り組みも検討し、より一層のよい成果が出る様にしていきたい。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月14日（月）15：30 ～ 16：50
場 所： オンライン会議
分 野： モバイル・AI 分野
学 科： モバイルアプリケーション開発科、AI システム科
出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) 伊藤 好宏 JTP 株式会社 グローバルビジネスオペレーション統括本部 技官
(合計1名)
②日本電子専門学校
大川 晃一 エンジニア教育部 部長 兼 モバイルアプリケーション開発科 学科長
福田 竜郎 AI システム科 学科長
石黒 元康 AI システム科 (議事録)
(合計3名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和6年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学、進級・卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況(特別活動、プロジェクトなど)
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議題1 令和6年度の就職状況および目標資格の取得状況について

<意見>

- ・両学科ともに就職状況は良いと思う
- ・Oracle 認定 Java プログラマは受験料が高いので学生は大変かもしれないが、両学科とも合格者が多く頑張っている
- ・金銭的な事情もあると思うが、資格取得のメリットの説明を工夫してみてもどうか。

議題2 令和6年度の休退学、進級卒業の状況について

<意見>

- ・様々な学生が在籍していて学生対応が大変だと思いますが頑張ってください。

議題3 令和6年度の各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）

<意見>

- ・外部コンテストへの参加や外部イベントに参加する取り組みは素晴らしいと思う。
- ・学生のうちに多くの刺激を受けて欲しい

議題4 教育課程編成委員会の意見活用状況

■モバイルアプリケーション開発科

<意見>

- ・専門学校の学生には基礎をしっかりと身に付けておいて欲しい。
- ・限られた時間の中で IT の基礎知識（2 進数や 5 大装置など）をどのくらい教えるのかは悩ましいところではある。どういう人材を育成したいのかという学科の方針や学校のブランドと関係するのでは。

■AI システム科

<意見>

- ・生成 AI でコーディングもできるが、望んだアウトプットを見抜くことが出来るかどうか

でエンジニアの基礎力がわかる

- ・小さい規模のコーディングは出来るが、大規模なシステムについてはコーディング力が必要
- ・Linux は基本なのでどこかで教えるチャンスがあると良いと思う。全ての授業を Linux でするのも良いかと思います。
- ・専門学校の学生には、基礎力プラス α を期待している

ま と め: モバイル・AI 分野の分科会では、多様な学生が多く在籍する中、就職率および休退学の学科の対応については問題ないとの評価を頂いた。また、教育課程編成委員会での意見活用についても問題はないとの評価を頂いた。専門学校生には技術を持っていることが前提なので、AI システム科およびモバイルアプリケーション開発科ともに学生のうちに多くの刺激を受けて欲しいとの期待があった。

以上

令和7年7月14日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月14日（月）15：45 ～ 16：45

場 所： オンライン

分 野： ネットワーク・セキュリティ分野

学 科： ネットワークセキュリティ科

出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) ストーンビートセキュリティ株式会社
佐々木 伸彦 代表取締役

②日本電子専門学校
姜 怜和 ネットワークセキュリティ科 学科長
明石 憲佳 ネットワークセキュリティ科 教員

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和6年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学・進級卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況
・教育課程編成委員会の意見の活用状況
3. 意見交換
4. その他

議 事：

議題1 昨年度の教育活動実績について

1 就職状況

クラス	卒業者数	就職希望者数	内定者数（率）
23CC01	19 名	19 名	19 名（100%）
23CC02	14 名	13 名	13 名（100%）

※ 就職希望以外は、進学及び自己都合による就職せず

2 休退学、進級・卒業等の状況

学年	入学時	進級	退学	休学他
1 年	61 名	45 名	13 名	3 名
	進級時	卒業	退学	休学他
2 年	37 名	33 名	4 名	0 名

※ 退学には除籍及び職業能力訓練生の退校も含む

3 目標資格の取得状況

資格名		取得者数
Linux (LPIC LinuC)	レベル1	30名
	レベル2	4名
	レベル3	1名
CCNA		7名
情報セキュリティマネジメント試験		3名

4 各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）

- (1) 第19回若年者ものづくり競技大会 ITネットワークシステム管理職種 1名出場
(金賞/厚生労働大臣賞 獲得)
- (2) 第62回技能五輪全国大会 ITネットワークシステム管理職種 選考会 1名出場
(技能優秀賞 獲得し、技能五輪全国大会 東京都代表に選出)
- (3) 第62回技能五輪全国大会 ITネットワークシステム職種 1名出場
- (4) Cisco APJC NetAcad Riders 2024 Round 1 3名出場 (日本国内 1位2位3位 獲得)
- (5) Cisco APJC NetAcad Riders 2024 Round 2 3名出場 (2位/18か国 獲得)

5 教育課程編成委員会の意見の活用状況

- (1) 令和6年度第1回 教育課程編成委員会からの意見の活用状況について

【議題】2年次の総まとめとしての科目である「卒業制作」について、企業と連携し実社会で活用できる内容で運用を検討したいと考えている。

<現状>

学科内では以下の問題点があると考えている。

- ・実践的な指導力の不足
- ・最新技術への対応
- ・新しいテーマの探索

特に「新しいテーマの探索」について、企業の方からのテーマ提案などをいただくために、どのような取り組みが考えられるかアイデアをいただけないでしょうか。

【意見】

- ・トレンドなどの提供を受ける(企業からオーダーをもらう)
- ・同じものを学んでいるので、成果として同じものになるような気がする
- ・技術的に求められているものを考慮する
- ・社会に出ると自由にテーマが設定できない
- ・企業訪問して、現場(業務も含め)の声を聴くのもあり
(企業(卒業生が在職)の業務からヒントが見つかるかもしれない)

- ・新技術(わからないこと・理解できないこと)に取り組む姿勢が大事
- ・大枠で「テーマ」を決めてしまえば良い

【活用状況】

- ・上記意見を踏まえ、企業連携授業形式に協力いただける企業を選び、今年度後期授業から実施。授業内容を見直し、テーマの選択から制作作業も含めて学生指導に加わっていただいた(但し業務の都合上、毎回とはいかず 5 回ほど参加)。また、卒業制作発表会にも参加して、学生の発表内容や成果について意見や評価をしていただいた。実務レベルでの貴重な意見で、各学生達にも励みになったと思い、今後も可能な限り続けていきたいと考えている。

6 まとめ

2 クラスともに就職希望者全員が 100%就職し卒業したことについて、売り手市場とのこともあるが、希望の希望通りの業界に就職を決めたことは素晴らしいことで続けてサポートをしてほしいとのご意見に、令和 7 年度も継続できるようにしていきたい。

休退学、進級・卒業等の状況について、年度として大きく増加してしまうのは問題だが、様々な施策をして、少しでも多くの学生が進級、卒業できるようにしてほしいとの意見をいただき、学科内でも学年間・クラス間交流、卒業生との交流の場を増やすなど色んな対策を立てていきたい。

目標資格の取得状況を昨年より増えていることについて、学校や学科での支援策を増やしていくのが望ましいとのご意見に、Linux の割引やリテイクキャンペーンの他にも色んな協会と連携できるようにしていきたい。CompTIA 関連資格については、学科でのつながりががないため佐々木様を通し団体とのつながりや学生向けのキャンペーンなどの確認を依頼した。

各種教育活動の状況と学生外部大会の実績について、第 19 回若年者ものづくり競技大会での金賞/厚生労働大臣賞の受賞、第 62 回技能五輪全国大会選考会（IT ネットワークシステム職種）で技能優秀賞を獲得し、東京都代表として全国大会に出場。Cisco APJC NetAcad Riders 2024 においては、国内大会で上位を独占し、世界大会では 2 位を獲得。大会などの成果により学生間で刺激され、資格取得に励む学生もいる状況であることに対し、今後は、教員が大会出場者を選ぶのではなく、学生から何かをしたい、大会に出場したいなど能動的になれるような感じになればもっと良いのではないかとのご意見をいただき、成果を挙げた学生を中心に勉強会など学生間の情報共有できる場を設けるなど次年度につなげていきたいと考えている。

教育課程編成委員会の意見の活用状況については、昨年の議題や委員からもらった意見を報告し、9 月の会議で意見をもらうことにした。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月14日（月）15：30 ～ 16：40
場 所： 職員室 会議室（大）
学 科： DXスペシャリスト科
出席者： ①学校関係者評価委員
中野 正 （一般社団法人ソフトウェア協会 管理課 課長） （合計1名）

②日本電子専門学校
植山 沙欧 （DXスペシャリスト科 科長） （合計1名）

次 第： 令和6年度の教育活動に関する報告
1. 就職状況について
2. 休退学状況、進級卒業状況について
3. 質保証に対する資格の取得状況について
4. 各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）について
5. 教育課程編成委員会の意見活用状況について

議 事： 令和6年度の教育活動に関する報告
別添資料をもとに、次第に沿って報告した。報告の結果は以下の通りである。

1. 就職状況について

<意見>

就職はできているが、DX関連の就職は難しいのではないのでしょうか？新卒でDXを任せることはないし、そもそもDXを職としている企業はほとんど存在していないので。学科の方針の「まずは企業に入社し、身近なものを自動化して、職場の無駄を無くしていく人材」は良いと思います。

2. 休退学状況、進級卒業状況について

<質疑応答>

全般的にメンタルの不調というのは増えているのですか？

→肌感だが増加傾向にあると感じる。

メンタルの不調もそうだが「すぐに諦める」傾向の学生が多くなった。

辞める学生の傾向は何かありますか？

→「勉強ができない」というより「文章が正しく読めない」ことに起因しているように見える。読めない漢字や英単語は飛ばして読み、流し読みしかしないので、要点が掴めずにいる。丁寧に資料を作成しても読み解けないが、学生は真面目なので、必死に読むことを意識するが、読解力が無いために理解できず八方ふさが

りになってしまう。

3. 質保証に対する資格の取得状況について

<意見>

過去問を繰り返し何度も解いて資格取得をするより、技術習得のために資格取得を目指すようになるように頑張ってください。

4. 各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）について

<意見>

コンペティションに受賞できたのは、企画から内容の練りこみ、プレゼンテーションの指導などを行った結果だと思います。学生にとっても満足いく結果だったのではないのでしょうか。

5. 教育課程編成委員会の意見活用状況について

<意見>

・A I 活用の学習について

A I システム科と被ってしまうとのことですが、ツールを使っただけの内容であれば取り入れても良いのではないのでしょうか？D Xスペシャリスト科でL L Mをローカルでやってわけではないでしょうか。

・D Xに対する考え方を広げる

D Xに対する考え方を広げるため、町の中小企業など見学に連れて行ってみるのはどうでしょうか。実際にF A Xで届いたものを紙に転記して「これお願い」といった現場の状況を「この人たち、何やっているんだろう？これならデジタル技術があれば済むじゃないか」というような現場を見せて。で、「いや、僕だったらこうやる」といったアイデアを出させると良いかもしれません。身近なことから社会を感じることが良いと思いました。

・高校生に対してD Xを伝える難しさ

高校生にD Xで入っていくのは難しいですが、ビジネスマンに憧れを持っていると良いですね。ドラマであるような、広告代理店だとか、カッコいいビジネスマンの姿っていうのがあって、こうなりたいんだっていうことがあるとアピールしやすいと思いました。

ま と め：

D Xという高校生に響かないキーワードをどのように扱っていくのか、改めて難しい内容であることを再認識した。D Xを題材に何を教育するのか？あらためて検討していくため、教育課程編成委員会と連携して学科運用を行っていくこととする。

以上

学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月14日（月）15：45 ～ 17：00
場 所： オンライン会議
分 野： 情報分野
学 科： 情報処理科、情報システム開発科、高度情報処理科
出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）渡邊 登 合同会社ワタナベ技研
代表取締役

（合計1名）

②日本電子専門学校

蓮見 圭亮 情報処理開発科 学科長
柳橋 宏樹 情報システム開発科 学科長
糠盛 創 高度情報処理科 学科長

（合計3名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和6年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学・進級卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況
 - ・コロナ禍対応
 - ・教育課程編成委員会の意見の活用状況
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 令和6年度の教育活動に関する報告について

（就職状況について）

就職状況について、特に留学生の就職と内定率の傾向について議論が行われた。

情報処理科では、日本人学生の求人状況は好調であるものの、留学生、特にミャンマーやネパールからの学生の日本語力不足が顕著で、就職に苦戦している。日本人学生が2～5社で内定を得る一方、留学生は10～50社以上受験するケースも見られる。学科全体の最終就職決定率は98.2%と改善したが、未決定の3名のうち2名は留学生であった。

情報システム開発科では、IT分野の景気は良好で採用は積極的である。オンライン面接は継続しているが、最終面接は対面が基本である。そのため、今後の留学生の増加に伴い、次年度以降の採用において不安が残る。

高度情報処理科では、最終的な就職率は100%を達成しているが、前期中の就職率が低下傾向にある（昨年9割→今年は7割強）。学生の大手志向や技術志向が減少し、企業の雰囲気重視や内定の早期確保を優先する傾向が強い。インターンシップ参加者は約2～3割で、短期間のものが中心だが、インターン先への就職実績も多い。

委員からの意見として、留学生の増加に伴い、日本語力不足が就職の大きな課題であるとの認識が共有された。留学生の英語能力の高さに注目し、それを活かしたグローバルな就職支援の可能性が示唆されたが、中小企業における受け入れ体制の課題も指摘された。就職後の早期離職率の低下が課題として挙げられ、特に近年、年収アップを目的とした早期転職が増加している傾向がある。

(各種教育活動について)

教育活動について、特に資格取得の現状と新たな学習への取り組みについて議論が行われた。

情報処理科では、J 検 3 級の取得率は改善し約 80%であったが、IT パスポートや基本情報技術者試験の取得率は大きく低下し、基本情報技術者試験は 12%程度にとどまっている。学生が受験しないことが主な原因で、企業が資格よりもコミュニケーション能力やプログラミング能力を重視する傾向があると学生が察知しているためと分析された。

情報システム開発科では、基本情報技術者試験の合格率が 40%から 55%へ向上した。科目 B の試験範囲がアルゴリズムとセキュリティに限定されたことが要因と分析された。

高度情報処理科では、基本情報技術者試験の合格率は約 2～3 割と、情報処理科と同じく就職価値の低下に伴い資格の価値も低下している現状が指摘された。

委員からの意見として、基本情報技術者試験の受験率低下に対し、基礎知識の証明や将来の転職を見据えた上での資格取得の重要性が改めて強調され、学校として学生にその意義を伝えていく必要性が議論された。

新たな取り組みとして、情報処理科では産学連携企業であるナビオコンピューターによるテスト設計に関する特別授業を実施し、卒業制作の品質向上に効果があった。また、生成 AI を自由に使ってデプロイまで行う課題を実施したが、160 人中 10 人しか達成できず、「生成 AI を使ってもできないものはできない」ことを学生に学ばせる機会となった。情報システム開発科では ET ロボコンやものづくり競技大会に参加し、ものづくりの楽しさを体験させている。高度情報処理科でも CEATEC への参加や各種コンテストに挑戦しており、参加すること自体を重視している。

生成 AI の利用と教育課程編成委員会での議論として、各学科で生成 AI の利用に関するガイドラインを策定中であり、「活用を否定せず、積極的な利用を推奨」を基本軸としている。授業の意図しない生成 AI の利用は認めない場合がある旨が明記された。委員会では、企業での AI 利用は限定的であるものの、将来的には要件分析や定義、出力の評価・理解・顧客への説明といった人間に求められる能力の向上が重要との意見が出された。AI の技術進化の速さ（半年で能力向上）が実感され、教員の業務効率化への貢献も指摘された。

(その他)

その他、各学科の休退学状況、各種教育活動の状況、教育課程編成委員会での質疑と活用状況の報告などが行われた。

休退学理由として、精神的な不調や経済的困窮、アルバイト優先による学業不振が増加していることが各学科共通の課題として挙げられた。

ま と め:

- ・日本語力に課題を抱える留学生の就職支援を強化し、各学生の状況に応じた対応を検討する。
- ・AI の急速な進化に対応し、今後の教育課程において「人間に求められる能力」の向上に重点を置いたカリキュラムの見直しを継続する。
- ・学生の資格取得意欲が低下している現状に対し、基礎知識の重要性や将来的なキャリア形成における資格の意義について、学校として改めて積極的に働きかける。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月14日（月）15：45 ～ 16：45
 場 所： オンライン会議
 分 野： 電気分野
 学 科： 電気工事技術科、電気工学科、高度電気工学科
 出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）舟山 大器 一般社団法人 日本 PV プランナー協会
 EMA 認定センター長

（合計1名）

②日本電子専門学校

高橋 俊幸 電気工事技術科 学科長
 山路 哲平 電気工学科 学科長

（合計2名）

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和6年度の教育活動に関する報告
 ・就職状況
 ・休退学、進級卒業状況
 ・目標資格
 ・各種教育活動の状況（オンライン教育、特別活動、プロジェクトなど）
 ・教育課程編成委員会の意見活用状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 就職状況について

<意見>

学科	人数	就職率
電気工事技術科	16 名	100%
電気工学科	32 名	100%
高度電気工学科	11 名	100%

- ・毎年安定して就職できている点、大手企業に多くの学生が就職している点を評価していただいた。
- ・2024年度に引き続き、2025年度も入学学生のうち留学生比率が高くなっているため、今後も留学生対応がキーポイントになるとご意見をいただいた。

議題2 ドロップアウトの状況

<意見>

学科・クラス		年度 初期人数	年度 終了時 人数	ドロップアウト理由
電気工事 技術科	23KK	17 名	16 名	・就職のため (1 名)
	24KK	32 名	29 名	・家庭の事情 (1 名) ・進路の見直し (2 名)
高度電気 工学科	22KZ	11 名	11 名	—
電気工学科	23KJ	33 名	32 名	・進路の見直し － 別業種への挑戦 (1 名)
	24KJ	33 名	32 名	・学習意欲の低下 (1 名) ・中途採用での就職 (1 名) ・兵役のため (1 名) ・進路の見直し － 別業種への挑戦 (2 名)

- ・休退学理由はいずれも仕方ない内容で、対応も十分実施しているとご意見いただいた。
- ・中途採用での退学は、就職先の企業と入社のタイミングや運用についてしっかりと相談する必要があるとご意見いただいた。
- ・兵役については入学前にわかることなので、入学前に日本での就職の可否などを詳細に確認し、ミスマッチを防ぐのが良いのではとご意見いただいた。

議題3 資格の取得状況

<意見>

学科・クラス		第二種 電気工事士	第一種 電気工事士	第三種 電気主任技術者 ※1
電気工事 技術科	23KK	—	9/16 名, 56.3%	—
	24KK	—	6/29 名 20.7%	—
高度電気 工学科	22KZ	—	11/11 名, 100 %	6/11 名, 54.5 % (8/11 名, 72.7 %)
電気工学科	23KJ	31/32 名, 96.9 %	25/32 名, 78.1 %	9/32 名, 28.1 % (16/32 名, 50.0 %)
	24KJ	35/36 名, 97.2 %	21/36 名, 58.3 %	2/36 名, 5.6 % (16/36 名, 44.4 %)

※1 括弧内は科目合格者数

- ・十分な実績を出せているため、今まで通りサポートを続けていくのが良いとご意見をいただいた。

議題4 各種教育活動の状況

<意見>

【KJの特別活動報告】

活動名	期間	概要
電設工業展見学	令和6年5月31日	・昼間部電気工学科に在籍する全学生を対象に実施した。 ・東京ビッグサイトにて開催される同展示会に参加し、任意の企業ブースを見学し、見学した内容の報告書を提出させている。
施工管理現場見学会	令和6年8月19日 ～9月6日	・電気及び空調設備工事に関する施工管理会社に協力していただき、現場見学会を実施した。 ・ご協力いただいた企業の中から学生の希望を集計し、各自1社以上見学するよう調整した。
第二級陸上特殊無線技士養成課程	令和6年10月8日 ～10月9日	・電子応用工学科で実施している当プロジェクトに対し、電気工学科の希望する学生も参加させていただくよう調整した。 ・2日間の講習と試験合格により、参加学生が当該資格を取得することができた。
CQ EV ミニカートレース プロジェクト	令和6年8月19日 ～令和7年1月31日	・電子応用工学科と合同でプロジェクトを運用し、両学科の希望する学生が参加した。 ・CQ出版より発売しているEVカートのキットを組み立て、つくばサーキットで開催される同大会に参加した。
教材開発プロジェクト	令和6年9月18日 ～令和7年3月20日	・パワーアカデミーの主催する「電気工学教材企画コンテスト」に向けた活動として、希望する学生9名2チームが参加した。 ・優秀賞を受賞し、作成した教材の概要について電気学会の同団体のブースにて発表した。
U21 学生研究発表	令和6年10月2日 ～令和7年3月31日	・電気学会に入会する前の若手学生向けの当発表会に、希望する学生9名2チームが参加した。 ・風力発電のブレードを3Dプリンタで作成し、動作特性についての研究内容をまとめた。

【KKの特別活動報告】

- ・電設工業展見学（東京ビッグサイト）
- ・労働安全衛生教育（危険体感、昇柱訓練）
- ・若年者ものづくり競技大会 電工職種 （1名）
- ・情報ネットワーク 学生日本一決定戦 （1名）
- ・電気工事士技能競技大会 （2名）

- ・オンライン授業の割合については、教育活動と学生のオンラインツールの修得を考慮しつつ、各種資格の認定校として最適な割合で、オンライン授業を組み込むと良いとご意見いただいた。
- ・特別活動についても、実務に即して十分な量及び内容の物を実施できているため、授業や付帯業務とのバランスを考慮しつつ運用するのが良いとご意見いただいた。

議題5 令和6年度の教育課程編成委員会での意見の活用について

<意見>

- ・昨年度の教育課程編成委員会の意見をうまく活用できているとご意見いただいた。

ま と め： 専門教育に加えて資格取得や就職面など、学生に対して十分な教育ができていると前向きな意見をいただいた。特に留学生の対応について、依然として業界全体では採用に向けて足並みが揃っておらず、採用に前向きな企業とそうでない企業の差が大きいため、学生に合わせたサポートを実施するのが望ましいとご意見いただいた。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和7年7月14日（月）15：45 ～ 16：45

場 所： オンライン会議

分 野： 電子分野

学 科： 電子応用工学科

出席者： ①学校関係者評価委員

（団体）米井 翔 一般社団法人組込みシステム技術協会
研修副委員長

（合計1名）

②日本電子専門学校

仲田 英起 電子応用工学科 科長

（合計1名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和4年度教育活動に関する報告
 - ・休退学、進級・卒業の状況
 - ・就職状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 令和4年度教育活動報告について

<意見>

・休退学の状況等について

退学者が若干増えているが、理由が精神的なもの（特に主治医の判断があるばあいなど）についての休退学・長欠についてはネガティブなカウントにするのは改善した方がいいのではとの意見をいただく。（カウントについては各種役所等の規定等に基づいてカウントしている旨を伝えた）

・進級・卒業、就職状況について（進級・卒業率、就職状況について説明を実施）

就職率は良い点良かった、就職先についても各分野に行っている点は評価できる。

また3月卒業生が大手に就職できている点も良い結果だったといえる。

業界の大手から求人が来ても受けない学生が多い点について意見交換を実施した。

・資格取得状況について（状況を説明を実施）

基本情報合格者と電験三種科目合格者が出ている点について評価を受けた。

合わせて基本情報処理技術者試験の最近の傾向などについて情報提供を受けた。

・学生募集について

数値は昨年より良くなっている点は良かった。また留学生が増加になっている点は業界でも注目しているとのこと（採用などの面で）

・課外活動等について

・課外活動について

EV カートの結果は良いところまで行っている今年に期待しているとのこと。

VR ゲーム（当科はデバイス作製）で実践的にやっている点は良い。また出典を通じて業界でも有名な企業と接点をもて、内定者を出せた点は良かった。また作品が準グランプリを受賞した点も評価できる。

- ・教育課程編成委員会の活用状況

活用状況については問題ないとの意見を頂いた。

合わせて生成 AI 関係について新人研修などでの事例を共有いただいた。合わせて企業での利用例もご紹介いただいた。

- ・特別活動について

EdgeTech 展では今年も業界セミナーなどを企画しているため、就活生に対して業界を知る良い機会として使える。また同展示会を主催している業界団体が学生イベントを今年新たに企画している（詳細な情報提供を頂いた）

- ・その他意見等

IoT が絡む分野としてのデータサイエンス系についての情報を提供いただいたまたそれにかかわる国の補助金事業なども情報も頂いた）

合わせて、VR ゲームプロジェクトなどで作品を多く作っているが、業界の観点からいうと製品をリリースしたのちも改修などをしていくので可能であればそこまでをカリキュラムに入れられても良いかもとの提案を頂いた。

ま と め： 状況を報告して概ね方向性等は問題ないことが確認できた。合わせて業界の採用状況などの動向を伺うこともできた。これらの情報は今後学生の就職指導などに役立てていきたい。また現状のカリキュラムについての学科の考えは業界の方向性にあわせても問題がないことが確認できたため、業界で必要な要素技術を抑えつつ基礎基本をしっかりと教育できるようにしていきたい。

以上